

## 平成30年度 豊能在宅医療懇話会 概要

日時:平成30年8月1日(水)午後2時～4時

場所:豊中市保健所

### ■報告

「第7次大阪府医療計画」について

(資料1に基づき事務局より報告)

### ■議題

(1)在宅医療の推進について

(資料2などに基づき各行政委員と事務局より説明)

○平成29年度在宅医療懇話会の報告

○在宅医療の推進に係る取組みについて

(2)地域医療介護総合確保基金(医療)について

(資料3に基づき事務局より説明)

(3)その他

○大阪府の死因調査体制の整備に向けた取組みについて

(参考資料2に基づき事務局より説明)

### ■議題(1)について

在宅医療の推進に係る取組みについて

#### ●各市町の取組み

- 豊中市は、ICTを導入し利用者の拡大を進めており、災害時のネットワークへの利用も検討している。急性期病院を中心とした後方支援診療の輪が市内に数か所できれば、と考えている。
- 吹田市は、機能の異なる病院間で患者がスムーズに流れる仕組みを作り、在宅患者の後方支援体制の構築を図っていく。また、訪問看護師の人材確保に関する議論を進めていく。吹田市薬剤師会では、かかりつけ薬局が患者の平常時から在宅移行時、入退院支援など最期まで関わる体制作りを考えている。
- 池田市は、市立池田病院を中心に在宅医療のガイドラインやルール作りを進めている。課題は在宅看取りが少なく、今後増やしていくためにどう動くかである。また、医科も歯科も在宅に関わる人材の育成を進めていきたい。
- 箕面市は、顔の見える関係作りはできており、これからは多職種連携を深めていくことや後方支援体制の充実、在宅を経験していない医療関係者、特に歯科医、薬剤師に対する教育に注力したいと考えている。
- 豊能町は高齢化率の高さに対応できる体制づくりが課題。また隣接する他府県の医療関係機関と町内の体制との使い分けにも課題がある。
- 能勢町は他府県の関係機関と連携しながら取組みを進めている。医療資源は少ないが町内でも連携できる体制を整えていく。在宅医療に対する住民の意識を高める取組みも行い、医療資源だけでなく、住民との連携に取り組んでいる。
- 豊能町・能勢町と池田市の薬局は協調している。ケア会議にも2町のケアマネジャーが参加しており、これからも協力し合っていく。また、川西市が市立池田病院の会議に参画し連携している。
- 圏域全体としては、

- ・薬局の24時間365日のネットワーク化は現在は難しい状況である。
- ・行政の会議への在宅医療関係者の参画が進んでいる市町が多い。

### ●その他の意見

- 在宅医療の推進には、三師会、介護関係者、行政の連携が重要。ICTの利用で診療所同士、診療所と介護関係者の連携が進むのではないかと。
- ICTはほとんどの市町で診療所間や介護との連携を中心に始まっている。電子カルテとの連携が進んでいるところもある。ICTの取組みのレベルを圏域内で横並びの状態までもっていくことが圏域の一つの目標となるのではないかと。
- 在宅医療の推進には後方支援病院が重要。病院・診療所・訪問看護の連携を密にする必要がある。また、それぞれの病院の機能を診療所と情報共有することが在宅医療を推進するのに役立つ。

### ■議題(3)について

- 異状死は、在宅医療に取り組む医師が増えれば減っていくのではないかと。